

# お産をする場所がない!

## 格差社会と国の予算に県医師会の会長も警鐘

### 茨城県医師会が主催して「県民フォーラム」



日立市のシビックセンター(1月21日)

昨年11月、北茨城市立病院の産科が再開され、近隣からも喜ばれています。それまで県北地域では産科の閉鎖があいつぎ、お産ができる施設は日立病院など3ヶ所だけでした。全国的にも状況は深刻です。

茨城県医師会の主催「県民フォーラム」でお産をする場所がない!」が1月21日、日立市で開かれました。約200人が参加しました。はじめに県医師会の原中勝征会長が「格差社会が広がり、保険に入れなくて医療を必要としている人が受けられなくなっている。国民の医療を考えたいこう」と開

民の医療を考えたいこう」と開

会あいさつ。講演では、中林正雄氏(愛育病院院長)が医師数は増えているのに、産科医やお産の施設が減少している理由に、不規則で過酷な勤務、医療訴訟の多発、低収入などをあげました。また山田学氏



日本共産党  
北茨城市委員会  
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行  
インターネットでも  
ご覧いただけます。

<http://www.jcp-ktib.com/>

ご相談は  
お気軽に

市議会議員  
福田 明  
43-0468

市議会議員  
鈴木やす子  
42-2462

## 妊産婦のケアに 助産師の力を

鈴木やす子

担感が増している 産婦人科医志望の医師が減っていると報告。「分娩集約で中核病院の燃えつきがおきる」との懸念も表明されました。泉陽子氏(茨城県保健福祉部)は、「総合病院の産科が閉鎖されるなど、県としても危機感を持っている。助産師は全国で下から2番目。医師確保にとりくんでいく」とのべました。会場からは「自治体は予算の配分を考えるべきではないか」という声も出されました。

がら、助産師の不足や役割の軽視があると感じていました。じつ

4人の子の出産経験から強い関心をもってフォーラムに参加しました。これまで、産科医師や医療機関の不足もさることな



フォーラム会場で鈴木やす子、小林まみ子(日立)の両市議

さい茨城県では、医師とともに助産師の養成についても立ち後れていたことが報告され、県医師会では助産師養成の夜間コースの設置に取り組むとのことでした。お産のときの妊婦や胎児の死亡率は、日本ではひじょうに低くなっています。さらに今後、リスク診断の必要性と医療機関の役割分担が提案されました。経験者としては、ハイリスクにしないための予防にも力を入

## 第10回 天心焼展にぎわう

市商工会主催「天心焼展」が10回を数えました。県補助金を受け、主にガイロ目と呼ばれる北茨城



市民ふれあいセンター(1月17~21日)

産出の粘土を使用した作陶を手がけ、始まった展覧会です。市内外の陶芸家30人近くの作品が一堂に会し、じつさいの作品を見て手に触れ、買うことができま

す。毎年楽しみにしている市民も多く、また作家さん同士の情報交流の場ともなっているそうです。今年のは、「陶灯り」などの大きな作品も多く、約1500人の入場者でにぎわいました。

れてほしいと感じました。妊婦自身が出産に主体性を持つことや妊婦健診・教室のあり方、出産前後の精神面を含めての助産師によるケアなどがもっと重視されていいと思うのです。助産師会県支部長の川崎ます子さんが「助産師は、女性の一生につきそう仕事」と語っていましたが、これが社会的にもっと認められるべきです。

冒頭のあいさつで、県医師会の原中会長が国の予算に言及し、日本は公共事業費の割合が諸外国より高く、社会福祉費が低い実態を示しながら「生活のうるおいのための公共事業であり、軍費のはずなのに...順序が逆立ちしてないか。私たちのことを本当に考えてくれる政治家をつくらねば」と語っていたことが印象的でした。